

性器クラミジア感染症

➤ 性器クラミジア感染症とは？

「クラミジア・トラコマティス」という病原体により発症します。性感染症のうち最も多い病気です。自覚症状が乏しいため放置されやすく、感染が長期化し悪化させてしまうことがあります。1回の性行為で感染する確率は30%とも言われており、感染してから1～3週間の潜伏期間を経て他の人にも感染します。

➤ 症状

女性の場合：

無症状のことが多く、おりものの増加を認めるのは感染者の約1/4程度です。

子宮頸管炎から感染が進行すると卵管炎に至り、癒着により不妊の原因となります。さらに骨盤内に広がると骨盤腹膜炎になり、発熱、下腹部痛といった症状が出ます。上腹部にまで感染が及ぶと激しい痛みを伴う急性肝周囲炎を発症し、激痛のため救急搬送となり入院治療が必要になることもあります。また妊娠中に感染すると絨毛羊膜炎により流産の原因となり、分娩時に赤ちゃんに感染して結膜炎や肺炎を起こします。

男性の場合：

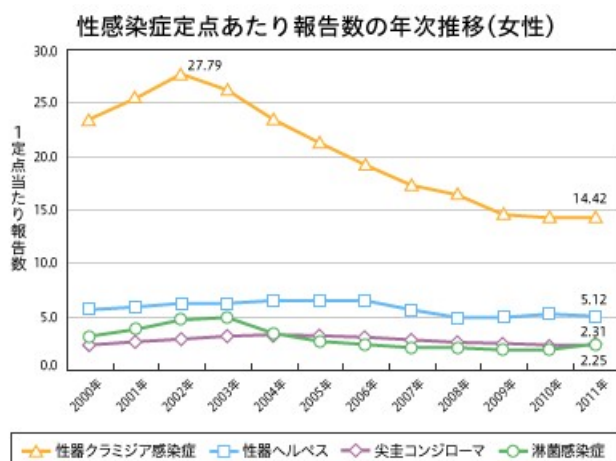
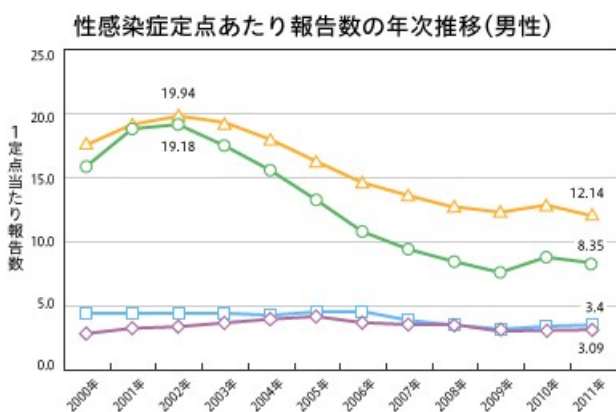
感染しても約半数の人には症状は出ません。症状として最も多いのが尿道炎による排尿痛、尿道から透明な液体の分泌による尿道不快感、そう痒感があります。感染が広がり副睾丸炎になると発熱、陰嚢の腫大や痛みが出ることがありますが、軽度のことも多いです。

精液所見としては精液量・精子濃度が低下することもあります。

➤ 検査法

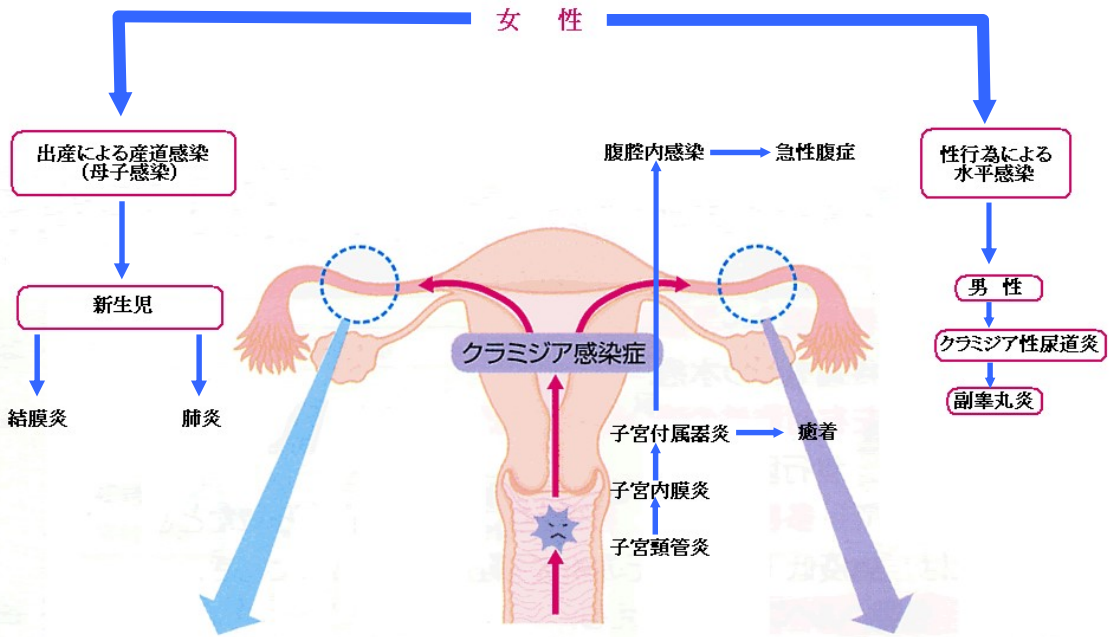
女性では子宮頸管の粘液に存在するクラミジアのDNAを増幅して検出します。しかし卵管炎など深い場所に感染している場合は頸管粘液の検査では検出できないため、血中のクラミジア抗体の有無で感染を判断します。

男性では尿や精液中のクラミジアDNAを増幅して検出します。



資料：厚生労働省「感染症発生動向調査」(2012年4月現在の概数)

クラミジアによる不妊の問題



卵管妊娠(子宮外妊娠)

卵管内腔の上皮細胞がクラミジアによる炎症によって障害を受け、輸送機能が低下するため、受精卵が子宮に運ばれず卵管内に着床します。

クラミジアによって障害を受けた細胞

着床

卵管性不妊

繰り返す炎症により卵管内腔や卵管周囲に癒着が生じる。卵管狭窄や卵管閉塞などにより卵子のピックアップ障害がおこります。また精子の通過障害が生じ受精できなくなります。

■ **クラミジアによる卵管水腫**
 卵管先端の卵管采が癒着により閉塞し卵管内容液が貯留するため卵管水腫を形成します。

クラミジアが排除される割合は、無症状、無治療で44.7% (感染1年後) →その他は**持続感染**してしまいます。

